

第5学年 総合的な学習の時間 授業構想シート

授業者 矢出 大介

本実践の主張点	世界や日本についての知識・技能を身に付け、探究のプロセスを教科・領域をつなげたカリキュラム・デザインをすることで探究力が育成されるだろう。
---------	-----------------------------------------------------------------------

1. 単元名 つながれ笑顔 和歌山とラオス

2. 5年A組の子ども

クラスをより良くしたいと考え、多くの子どもが休憩時間も自主的に会社活動（係活動）を行う意欲的に行う。また、朝の会のスピーチでは、自分たちで話し合うことを楽しみながら取り組むことができている。CHANGEにおいて「ひと・もの・こと」との出会いに喜びを感じながら学んでいくことができている。インドネシアの森林問題を政府や消費者などの様々な立場で話し合った時には、お互いのつながりを考えながら多面的に考えを伝え合うことができている。その反面、「対象・他者・自己」との対話をしっかりしながら学びを深めていけない子もいる。

3. 何ができるようになるか

探究力	<ul style="list-style-type: none"> ・発展途上国で活動していた多くの人との対話を通して、探究的な見方・考え方を働かせながら、ラオスの国の人々の生活と自分の生活を比較し、考える力 ・発展途上国の人々の抱えている問題の解決に向けて、探究的な見方・考え方を働かせながら、自分たちにできることを考え、発信する力
省察性	・探究的（多面的）な見方・考え方を働かせながら、学習を見通したり、振り返ったりする中で、どうすれば問題を解決できるのか考え、修正・改善する力

4. 何を学ぶのか

① 単元の目標

探究的な見方・考え方を働かせながら、ラオスの国の人々の生活と自分の生活を比較し、調査することを通して、自分たちとラオスの人々の生活がつながっていることがわかる。また、ラオスが抱えている水問題の解決に向けて、自分たちにできることを考え、発信することとおして、自己有感を高める態度を養うことができる。

② 教材の価値

日本は世界で数少ない水道の水が飲める国である。子どもたちは、安全な水は飲めることが当たり前だと考えている。しかし、安全な水を確保するために苦勞し、日本が便利な生活をしていることで、他の国々の自然が破壊されている。世界で苦しんでいる人を救うために活動している日本人がいる。比較したり、多面的に見ることで今まで見えてこなかったことが見えてくる教材である。

③学年間・教科間のつながり

社会科「暖かい土地の暮らし」「これからの食料生産」、道徳「もし世界が100人の村だったら」で学んだ、世界の現状などが本単元の問題解決に知識を補完するかたちで活用される。本単元の学びが国語「グラフや表を用いて書こう」「分かりやすく伝える」「すいせんします」図工科の「エコメッセージ絵画」において表現される。

5. どのように学ぶのか

①働かせたい思考スキル

くらべる
 つなげる
 まとめる
 広げる
 予想する
 見方を変える

②学習内容を理解し、資質・能力を育成するための学習過程

単元計画（全20時間） 本時15/20 第一次 世界と日本の現状を知る 7 生き物と環境の関わり 森林問題と私たちの生活とのかかわり 森林問題をめぐる人々のかかわり 環境問題と私たちとのかかわり 第一次 日本と世界の水問題を知る 4 環境アドバイザーに水問題を教えてもらおう SDGs ゲームで世界の問題を知ろう 第三次 ラオスのためにできることを考える 4 宍戸先生のラオスへの思いを聞く ラオスにできることは何か考える 第四次 自分たちの考えと成果を発信する 4 自分たちの考えと成果を発信する	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%; text-align: center; vertical-align: middle;">単元における授業づくりのしかけ</td> <td style="padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 世界の現状を知る人と出会い、インタビューをしたり、SDGs ゲームなどしたり学習を楽しみながら、世界の現状を知っていく。 ・ 井戸づくりのために必要な資金を集めるために必要なことを仲間と協働していく。 ・ 学びの履歴を可視化することで、知識の活用を促す。 </td> </tr> <tr> <td style="width: 10%; text-align: center; vertical-align: middle;">省察性を育む</td> <td style="padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習計画を立てる時間を確保し、学習を見通すことができるようにする。 ・ 自分たちの思いを大切にしながら、問題解決ができるのかを考える。 ・ 目指すゴールと意識しながら学習を振り返るようにする。 </td> </tr> </table>	単元における授業づくりのしかけ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 世界の現状を知る人と出会い、インタビューをしたり、SDGs ゲームなどしたり学習を楽しみながら、世界の現状を知っていく。 ・ 井戸づくりのために必要な資金を集めるために必要なことを仲間と協働していく。 ・ 学びの履歴を可視化することで、知識の活用を促す。 	省察性を育む	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習計画を立てる時間を確保し、学習を見通すことができるようにする。 ・ 自分たちの思いを大切にしながら、問題解決ができるのかを考える。 ・ 目指すゴールと意識しながら学習を振り返るようにする。
単元における授業づくりのしかけ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 世界の現状を知る人と出会い、インタビューをしたり、SDGs ゲームなどしたり学習を楽しみながら、世界の現状を知っていく。 ・ 井戸づくりのために必要な資金を集めるために必要なことを仲間と協働していく。 ・ 学びの履歴を可視化することで、知識の活用を促す。 				
省察性を育む	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習計画を立てる時間を確保し、学習を見通すことができるようにする。 ・ 自分たちの思いを大切にしながら、問題解決ができるのかを考える。 ・ 目指すゴールと意識しながら学習を振り返るようにする。 				

6. 何が身に付いたか

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本や世界の現状を知り、支援活動の意味や価値が分かる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本や世界の現状について、調べたりしながら、ラオスのみんなが喜んでくれる方法を表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発展途上国の人々の思いや生活の様子、異なる立場や考えを尊重しながら、自分たちのできることを実践しようとする。

CHANGE 学習指導本時案

授業者 矢出 大介

日時：令和元年 11 月 3 日（土）第 2 校時（10：10～11：55）

対象：第 5 学年 A 組 28 人

場所：5 年 A 組教室

本時の主張点	学習履歴に可視化により、これまでに学んだ知識を想起することを促し、更にグループを中心に自分たちの考えを話し合うことで、考えを再構成しながら探究的な学びを実現していくであろう。
--------	-----------------------------------------------------------------------------------------

1. 本時の構想と学習課題について

前時までに、子どもたちは、発展途上国で働いていた人たちとの対話や SDGs カードゲームをすることを通して、日本と発展途上国の生活の違いや様々なことがつながっていることを感じてきた。本時ではその子どもたちが、「ラオスでは飲み水を手に入れることが困難であること」を問題と捉え、その問題の解決策を吟味する。本時に至るまで子どもたちは、ラオスで井戸を作っている宍戸先生と出会い、自分たちの手でクラウドファンディングをしてラオスに井戸を作りたいと考えてきた。本時においては、子どもたちの「物資に恵まれた自分たちがラオスのために何かしてあげたい。」というこれまで積み上げてきた強い思いや願いが学びの原動力になるだろう。井戸を作りたいと考えている子どもたちに対し本時では、「ラオスに本当に井戸が必要なのだろうか。」という学習課題を提案し話し合う。井戸の必要性について、これまでの学習や生活とつなげながら考えを出し合うことで、水が生活に欠くことのできない存在であることを再確認し、「やはりラオスに井戸が必要だ」という考えに収束していくことを予想している。

2. 本時における探究的な学びと省察性の働き

ラオスに井戸を作るためにクラウドファンディングをしてきたが、これまでの学びを生かしながら、「仲間と互いに意見や考えを交流し合い、協働する中で、ラオスに本当に井戸が必要なのかと自分たちの考えを再構成していくこと」が本時における探究的な学びであると考え。本時においては、互いの考えを交流し合う中で考えの違いが明らかになる場面で省察性が働くと考える。考えの違いに気づくことで、再度自分の考えを見つめ、より多角的に考えてほしい。それにより、自分たちの生活とのつながりを考え、子どもたちの探究的な質を高めることを期待している。

3. 本時で活用・発揮したいこれまでの学び



子どもたちは、特別活動において「他人のために働くことの大切さ」を、道徳において「世界の貧困地域で働く人の思い」について学んできている。また、社会科での食料生産や様々な土地の暮らしと CHANGE の学びをつないできた。本單元においては、人間・土・水・森などは互いにつながっていることや日本が便利に生活をする中で発展途上国の人たちは苦しんでいる、それと同時にその人たちの生活

をより良くしようとしている人たちもいることを学んでいる。それらの知識を活用・発揮しながら、一人ひとりの見方・考え方に基づき「ラオスに本当に井戸が必要かどうか」を話し合い、考えを再構成しながら、学級の仲間と協働して自分たちが納得できる答えをつくっていく姿を期待している。

4. 本時の目標

ラオスに本当に井戸が必要かどうかについて個々の見方やこれまでの学びを活用・発揮したりしながら、自分たちにできることを多角的に考えることができる。(思・判・表)

5. 本時の展開

学習活動と予想される子どもの反応	留意点 □評価 ・手立て
<p>1. 学びを見通す。(問題の把握, 解決の見通し)</p> <p>2. 本時の学習課題についての確認し、各々の考えを表出する。</p> <p style="text-align: right;">考えの可視化</p> <p>ラオスに本当に井戸が必要なのだろうか。</p> <p style="text-align: right;">再構成</p> <p>3. 表出した考えを全体で吟味し、再構成する。 グループで話し合い、その後全体で話し合う。 (予想される子どもの反応)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>井戸が必要 人が生きていくためにはやはり水が必要</p> <p>学校が必要 みんなが勉強していく場所が必要 ラオスの人の大変さと自分たちの思いを伝えないといけない もっと自分たちがラオスのことを知らないといけない</p> <p>食べるものが必要 ラオスの人を笑顔にするために自分たちの作ったジャムやパンを送りたい 自分たちにしかできないことをしないとけない</p> </div> <p>4. 学びを振り返り、次時の活動を見通す。 振り返り</p> <p>(やはり井戸を作りたい。けどもっと思いを伝えないといけない。)</p>	<p>留意点 □評価 ・手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はじめに本時のゴールを確認し、見通しをもたせる。 ・各々の考えなどを表出できるようにする。 ・多角的な見方ができるような考えや資料を教師が用意しておく。 ・表出された考えを構造的に板書にまとめることで、再構成できるようにする。 ・学びを関連付け、総合し、それらを可視化するために、考えの要点を明らかにしながらXチャートにまとめていく。 <div style="text-align: center; margin: 10px 0;">   </div> <p>(子ども1人ひとりにはクラゲチャートに考えを整理しておく。)</p> <p>思 これまでの学びを活用・発揮しながら、ラオスの人たちのために自分たちに何ができるのかを多角的に考えることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間があれば、次時への見通しを持たせるために、これから「どんなことをすればいいのか」と問いかける。 ・できたことを中心に振り返り、価値付けながら本時のまとめをする。